

Ⅲ 下位文化理論と社会的ネットワーク

10. コミュニティと社会的ネットワーク

(1) ウェルマンの「コミュニティ問題」

●近代社会学の基本問題：産業化・都市化→コミュニティの変容。

この問題をウェルマン (Wellman 1979) は「コミュニティ問題」と呼んだ。

コミュニティ問題----「社会システムの大規模な分業が、第一次的な絆の組織と内容にどのような影響をおよぼしたのか」(Wellman 1979)。

●コミュニティ喪失論 (Community Lost argument)

産業的・官僚制的分業が、第一次的な絆を弱め、地域的・共同的連帯を喪失させた。

(Tönnies 1887, Wirth 1938)

●コミュニティ存続論 (Community Saved argument)

コミュニティは、産業的・官僚制的分業と相補的な関係にあり、存続している。

(W. F. Whyte 1981, Gans 1962a, Janowitz 1952, Suttles 1972) →コミュニティ喪失は神話？

「この過程で、喪失論の有用な出発点が失われてしまったかもしれない。すなわち、産業的・官僚制的分業が第一次的な絆の構造に強い影響を与えたということである。存続論者は、機能している近隣コミュニティの存続だけを追い求め、それだけを見る傾向にあった。その結果、われわれはいまや近隣コミュニティが存続し、しばしば隆盛を極めて知っているが、しかし社会的ネットワーク全体のなかで、近隣社会に基礎をおく絆がどういう位置にあるのかを知らない」(Wellman and Leighton 1979, p.376)

●コミュニティ解放論 (Community Liberated argument)

親密な絆のネットワークは、空間的制約から解放された「近接性なきコミュニティ」のかたちをとっている。

(a)交通・通信手段の発達

(b)高率の社会移動と居住移動

(c)親族・職場などのネットワークの空間的拡大

などが、コミュニティを空間的な基礎から解放。親密な絆は分散的なネットワークを形成。

●コミュニティを、空間を基礎として成立する社会集団・社会関係として捉えるのではなく、親密な絆のネットワークとして捉える。

●交通・通信手段の発達と、グローバルな社会関係の展開に対応して、コミュニティ概念を近隣社会という空間的基礎から解放しようとする理論。

●ネットワーク概念を使うことで、旧来のコミュニティ概念を相対化。

(2) 社会的ネットワークの基礎概念

- ネットワークとは、複数の点を線で結んだパターン。

社会的ネットワークとは、行為者を関係によって結んだパターン。

- 関係 (relationship, tie, linkage)

行為者相互の関係はさまざまでありうるが、とにかく直接的な関係がある場合、linkage (連関) あるいは tie (絆、紐帯) があるという。

- 肯定的な関係と否定的な関係

相互に相手を肯定的に捉えている場合、「肯定的な関係」(好意、援助関係、支配/従属)。

相互に相手を否定的に捉えている場合、「否定的な関係」(敵意、対立、闘争)。

(方向のあるグラフと方向のないグラフ)

通常は、肯定的な関係を方向のないグラフとして捉える。cf. バランス理論

- 関係の特定

関係は、「機能 (サポート)」や「社会的文脈」によって特定される。

例: 「機能 (サポート)」: 実用的援助、相談、親交、精神的サポートなど。

「社会的文脈」: 家族・親族、仕事仲間、近所、その他の友人など。

- 行為者の特定化

集合的行為者: 組織間ネットワーク (interorganizational network) や国家間ネットワーク

個人行為者: 個人間ネットワーク (interpersonal network)

- 行為者の把握

個別的把握: 具体的な行為者 A B C D... 相互間の関係をつぶさに捉える。

範疇的把握: 性別、年齢、職業などの属性によって、範疇的に記述する。

この場合、行為者は属性の束とみなされる。

- ネットワークの境界

トータル・ネットワーク: 境界を定義された集団内で成員間のネットワークを観察する。

例: ある町の弁護士のネットワーク、町内の世帯間ネットワーク

パーソナル・ネットワーク: 特定の行為者を中心とした関係の総体を観察する。

例: ある都市の住民 (サンプル) のパーソナル・ネットワーク

(3) ネットワークの諸次元

●絆の強さ

直感的な概念。「接触頻度」「永続性」「主観的親密さ」などによって測定。

「弱い絆の強さ」：有利な転職情報は「弱い絆」から (Granovetter)

●絆の多重性 (multistrandedness)

ある関係において絆が重複しているかどうか。しばしば強さと関係。
multiplexity (多重送信性) も同義。

●ネットワーク密度 (network density)

潜在的に結合可能な関係総数に対する現実の関係数。
緊密に編まれたネットワーク ↔ 緩く編まれたネットワーク

●ネットワーク (あるいは絆) の異質性

関係する人びとの属性の一致・不一致。

同類結合原理：属性が一致しているものほど結合しやすい (「類は友を呼ぶ」)。

●そのほか、相手との地理的な距離、出会いの文脈なども重要なネットワーク変数。

(4) ネットワークとコミュニティ

従来のコミュニティ概念は、社会的ネットワークの特殊ケース。
空間的に集中した、多重的で、密度の高い、親族や隣人の、同質的で、強い絆のネットワークを「コミュニティ」と考えてきた。

そして、このような絆が見いだされない場合、コミュニティが衰退したとみなされてきた。しかし、現実の社会関係のネットワークは、それよりもはるかに複雑である。